

ISO/TC 127 (土工機械) 2012 年 12 月

イタリア国ローマ市での国際作業グループ会議報告

ISO/TC 127/WG 8 (ISO 10987 土工機械—持続可能性) 国際会議

標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会国際専門家(Expert)
砂村 和弘 (日立建機)、原 茂宏 (コマツ)

2012 年 12 月上旬に、国際標準化機構 ISO の TC 127 土工機械専門委員会傘下の、土工機械の持続可能性に関する国際規格 ISO 10987 の今後の展開を検討する ISO/TC 127/ WG 8 国際作業グループ会議が、イタリア国ローマ市イタリ Consiglio Nazionale delle Ricerche (CNR 国立研究審議会) のビルの会議室を提供いただいて開催され、協会標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会から国際専門家(Expert)として出席の各氏の報告を紹介する。

ISO/TC 127/WG 8 (ISO 10987 土工機械—持続可能性) 国際会議出席報告

1 開催日：平成 24 年 12 月 6 日 (午後), 7 日

2 出席者：米国 5: ROLEY, Daniel, Dr., CROWELL, Charles, Mr. (Caterpillar)、WEST, Timothy, Mr. (Deere)、NEVA, Steve, Mr. (Bobcat/斗三)、英国 1: HUTSON, Victoria, Ms. (JCB)、イタリア 2: PAOLUZZI, Roberto, Dr. (IMAMOTER 農業機械建設機械研究所)、GAROFANI, Giorgio, MR. (FIAT)、日本 2: 砂村 和弘 (日立建機)、原 茂宏 (コマツ) 計 9?名出席

コンベンナー (主査) 兼 ISO 10987 プロジェクトリーダー (PL) : 前記 ROLEY 博士 (米国、Caterpillar)

従来経緯 : ISO 10987 は機械の環境、社会 (責任)、経済面での持続可能性を総合的に扱い、建設業など土工機械の使用者に対して報告するための項目及び様式を規定するもので、発行済みであるが、今後さらに標準化を進める事項として前回 3 月パリ西郊での国際 WG 会議で次の項目を優先的検討とされており、それらに関して、今回会合で検討を進めることとなっていた。

- 1) 有害化学物質 : AEM の規格化活動と連携する、日本で作成中の JIS 案を次回紹介する (出浦) (付記 : 日本規格協会での英訳化を待つこととして今回は未提出)
- 2) 省エネ運転 : CECE の規格化提案を待つ
- 3) 中古車 : 中国・ベトナム規格案文をレビューするため、英文の案文を配布する (ROLEY)、リサイクル、リユース、リビルドなどに関する ISO、各国規制を次回確認する (全員)、各社中古車ガイドラインがあれば PL に送る (全員)
- 4) トレーニング : 各国の教育状況について次回までに調べる (全員)、大形機械の ISO/WG でも議論する (Roley)
- 5) 騒音 : EU 騒音規制の改訂動向を次回報告する (JANOSCH) (今回欠席)

3 主要議題、議決事項、特に問題となった点及び今後の対応についての所見 :

3.1 ISO 10987 初版制定発行 : まず、最初に、11 月 15 日に ISO 10987 制定発行された旨報告された。

3.2 各課題項目の検討

1) 騒音 Noise : ISO/TC 127 (土工機械) に当面適用するのは時期尚早、ISO/TC 43 (音響) の課題。

2) ISO 10987 で扱うべき追加項目 : (用語の) 定義が重要、他の ISO 規格を確認要

- i. 用語及び定義 : リマン、再生、リサイクル
- ii. 中古機械の分類/格付け : ROPS、機関の格付け、品質、チェックリスト
- iii. 中古機械 : 既存の規制及び規格、今後の規制及び規格

3) Product support 運転員の教育を含む、一般的な指針となる文書を作成可、かなり進んだ段階から開始

4) 運転員の教育 現行規格は新技術分野を含める必要がある。

運転員自身によるリスクアセスメント（実施の）手段

環境を改善すること自体による環境への直接の影響—道路、橋梁、建造物、発生物の制御、水の有効利用（建設自体の環境影響評価）

5) 有害化学物質（付記：EU 規則 REACH（Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals、リーチ）対応のデータベースの作成基準に関する検討要と米国 ROLEY 博士から示唆されたが、当の EU 側の英国 HUTSON 氏は（多大の労力を要するためか）否定的でそれ以上論議進まず、なお、日本としては、今後日本規格協会から JIS の英訳が発行されれば提出予定]

6) 他の情報

ベトナム（9割以上が中古車）：ベトナムの中古機械への要求（S&R）

中国：SB/T10529-2009（製作メンバーにコマツあり）、GB/T21667、SN/T1795.3 油圧ショベル

3.3 次の段階に関して NEXT STEP

a) リマン、再生、リサイクル、廃棄及び中古機械の分野

- 南米における中古機械の規格を調査（WEST 氏及び HUTSON 氏担当）
- 中国での中古機に関する情報を調査（CROWELL 氏及び WEST 氏担当）
- 中国での定義を調査
- リマン、再生などの用語の定義の案文を準備（第2部、WEST 氏担当）
- 中古機械の分類の案文を準備（第2部）
- 中古機械に対する要求事項の案文を準備：ROLEY 博士から中国が SB 規格を作成していることもあり、リサイクルの一環として、優良（安全）中古車認定基準を検討と提案、それはちょっとお門違いじゃないかと PAOLUZZI 博士からは否定的意見もあった（第3部、ROLEY 博士担当）

b) 地球温暖化ガス削減のためのプロダクトサポート—手段及び使用者の教育

施工現場での効率改善のための製造業者から使用者への指針（全員担当）

地球温暖化ガス削減のためのプロダクトサポートまとめ（第4部、HUTSON 氏担当）

- i. 用語及び定義
- ii. 序文及び理論的理由説明
- iii. 製造業者からの情報

なお、次回 JTLM（日米欧韓中工業会の技術連絡会合、2013年4月22日、23日プラハにて）の次の日に JTLM の GHG グループ会合が予定されているので（日本からは建設機械工業会 吉村氏、コマツ 出浦氏 出席予定）そこで再度もむこととなった。

c) 運転員の教育：

安全及びエコに関する教育の準備

どのように進めるか決めるためにデータが導くようにする“

既存の教育プログラムを見直す

なお HUTSON 氏が、関連するパンフレットを用意することとなった。

4 その他：次の事項に関しても、検討課題とすべきではないかと示唆された。

a) 建設自体の環境影響評価基準作成

b) カーボンフットプリント

5 次回会合：2013年6月25日、27日英国ロンドンの英国規格協会 BSI にて、ISO/TC 127/SC 1/WG 6（ISO/TS 11152 エネルギー使用試験方法）国際作業グループ会議、及び、ISO 13849-1 に基づく機械制御の新規作業グループ会議と連続で

以上